**第３学年１組　道徳科学習指導案**

１．主題　　　自然との共存　＜自然愛護　Ｄ－（２０）＞

２．教材名　　サルも人も愛した写真家（出典：中学道徳３とびだそう未来へ　教育出版）

３．ねらい

大自然のかけがえのなさに触れ、自然と人間、自己との関わりについて考えを深めることにより、自然との調和の中で生かされていることを自覚し、共存していこうとする態度を育てる。

４．道徳的価値について

　　昨今、町中にサルやクマ、イノシシ等が出没する問題が多く報道されている。野生動物の命に関することを題材として取り上げることで、自然と人間、および自己との関わりについて考えを深めさせたい。自然との調和の中で私たち人間も生かされているということに気づかせることもねらいとしている。

５．生徒について

　　生徒たちは、道徳科の学習で、自然愛護について、人間が生活する上での便利さと川や海、山などの自然の美しさを守ることの大切さについて話し合い、考えを深めている。しかし、その自然の中で生活する動物たちの命や生活については、まだ考えが及んでいない。自然やそこに生息する動物たちとの共存の在り方を考え、自分にできる範囲で自然環境をよりよくしようとする態度を育成したい。

６．教材について

　　本教材では、主人公の松岡さんがサルに魅せられ青森県に移り住み、サルたちの暮らしぶりを写真におさめている。一方で村人にとってのサルは、畑を荒らし、農作物を盗む害獣である。村人からサルの駆除に協力してほしいと依頼された松岡さんの葛藤について、松岡さんの心の揺れに共感しやすい教材である。また、教材の中では、松岡さんの決断を示さない形になっているため、松岡さんが直面した問題について、自分のこととして考えることに適しており、さらに、自然と共存することの難しさや、そこで暮らす動物の「命」の尊さについて考えを深めることができる。

７．指導について

　　まず、導入では、サルの写真をみて話し合うことで、天然記念物に指定されているニホンザルの特徴や魅力について理解させる。また、自分の住む町に住んでいたらどう思うか考えることで、野生の動物に対する恐怖についても共有し、自然との共存というテーマに方向付ける。

　　展開では、松岡さんがどのような決断をするべきか話し合う。天然記念物であり害獣であるサルについて、保護するべきか駆除するべきかを話し合う中で、どのように共存していくことができるのかまで考えを深めていきたい。自然と自分との関係を見つめ、自然との調和の中で生かされていることに気づかせ、自然とともに生きていこうとする意欲や態度を育成したい。

８．指導過程

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 学習活動 | 主な発問と予想される生徒の反応 | 指導上の留意点 |
| 導入 | １　「北限のニホンザル」の写真を見て話し合う。２　本時のめあてを知る。「共存」について考えよう | この写真をみてどう思いますか・毛が長い　・白っぽい　・かわいいもし身近にいたらどう思いますか・こわい　・大切にしたい | ・青森県下北半島に生息するニホンザル「北限のニホンザル」は、毛が白く長い特徴的な姿で、1970年に天然記念物に指定されたほか、農作物への食害により有害鳥獣にも指定されていることを知らせる。 |
| 展開 | ３　教材「サルも人も愛した写真家」を読んで話し合う。（１）教師の範読を聴く。（２）あらすじを確認する。（３）松岡さんがどのような決断をすべきか話し合う。　・　グループで意見を交流し、イメージマップをつくる。　・　全体で交流し、補助発問からさらに考えを深める。４　自分のこととして考える。５　本時に考えたことをまとめる。 | 松岡さんはどのようにするべきだろうか○駆除に手を貸すべきだ・人の生活のため仕方ない・被害を減らすため○駆除に協力しない方がよい・サルを子のように愛しているから無理・サルを駆除するのは人間の勝手補助発問１　協力しないとどうなるのだろう・村にいられなれなくなる・サルに会えない→村の人よりもサルを優先するひどい人になる補助発問２　サルを駆除するのはいけないことなのだろうか・自分たちの身や生活を守るために駆除することは悪くない。・自然の中で生かされている人間は自然に対して謙虚でなければならないもし自分が松岡さんだったら、どうしますか今日の授業で考えたこと、学んだことをまとめましょう・サルなどの動物はこわいけど、大切にしていきたい・自然に対して謙虚に向き合っていきたい | ・ファシリテーションの仕方について説明する。・模造紙の中心に「松岡さんはどうすべきか」、右に「手を貸す」、左に「手を貸さない」と書かせ、スムーズにイメージマップづくりができるように声をかける。・他のグループのイメージマップから学ぶ「ジグソー法」を行う。・指名はグループごとに行わず、ジグソー法後の自分の考えを発言するように伝える。・補助発問は、生徒から出た意見を用いて行う。ここでは収束をねらいとしたペアトークの「探究・わくわくトーク」を意識する。・村人との共存、サルとの共存、どちらも押さえる。・自我関与させ、決断させるようにする。方法論に対しては、理由まで聞くようにする。・ワークシートに記入させ、何人かに発表させる。 |
| まとめ | ６　「わたしたちの道徳」P117「自然との調和」を読む。 |  | ・「わたしたちの道徳」を範読し、余韻をもたせて終わる。 |

９．本時の評価

　　松岡さんの決断について話し合う中で、自然愛護について多面的・多角的に考え、自然との共存について考えを深めている。